

《第3セッション》



<スケジュール>

日付	概要
7月25日(火)	成田空港集合→我孫子市、対面式
26日(水)	オリエンテーション
27日(木)	市長表敬、我孫子市紹介、南京玉簾体験
28日(金)	パーソナルデー
29日(土)	ホストファミリーデー
30日(日)	ありがとうイベント
31日(月)	長刀体験、邦楽（琴）体験、地域小学生による紙芝居
8月1日(火)	空手体験、地域大学生との交流
2日(水)	移動→水戸市、対面式
3日(木)	弘道館、水戸城跡見学、畳製作体験
4日(金)	国際交流イベント参加、ありがとうイベント
5日(土)	ホストファミリーデー
6日(日)	移動→多摩市、市長表敬、対面式
7日(月)	キックオフミーティング、鶴牧・落合中学校訪問
8日(火)	TIC イベント参加、文化交流
9日(水)	パーソナルデー
10日(木)	恵泉女学園大学訪問、KDDI・長谷工ミュージアムツアー

11日(金)	ホストファミリーデー
12日(土)	ありがとうイベント
13日(日)	解散

4年振りの訪問となった水戸市と多摩市を含む、関東エリアでの第3セッションでは、夏休み期間に入っていたことから、地域の子供達や大学生が主体的にそして積極的に各活動への参加してくれた。参加者からも地域の人達との個人的な繋がりや、新たなネットワークを作ることが出来たと喜ぶ声が多数あった。

我孫子市では日本古来の大道芸や長刀、空手、邦楽（琴）など体験型の活動が多く含まれ参加者からも好評だった。またスケジュールに比較的フリータイムが設けられていたので、WCI 内で参加者同志の交流を深める時間を持つことも出来た。参加者間のコミュニケーションが潤滑であることは、地域貢献の活動の際にも良い相乗効果となる。

水戸市では、4日間と短い滞在ではあったが、昼のワークショップ等ユニークな体験も出来、高齢者福祉サービスセンターでの和太鼓体験など、短い時間の中で密な体験が出来た。

最終訪問地の多摩市では、学生を多く含む40名近いボランティアの方達が積極的に日々の活動に参加して下さった。パーソナルデーには浅草や月島方面、また高尾山など、バラエティー豊かな6つのツアーを企画して頂いたり、彼等とも交流する機会が日々設けられ、地域からの期待感を日々感じる滞在となった。また恵泉女学園での大学生企画の縁日体験や、自主的に参加希望をしてくれた地域の中学生達との2つの中学校での交流など、夏休みにも関わらず学校を訪問する機会にも恵まれた。そして多摩と言う土地柄を生かした、長谷工ミュージアムや KDDI ミュージアムツアーなど企業訪問も組み込まれており、日本の最先端技術を学ぶことのできる、都会ならではのセッションとなった。

● 千葉県我孫子市



<参加者の感想、印象に残った活動>

- ・ 空手体験がとても面白かった！（多数）特に日本女子空手道選手権大会で優勝した女性空手家に手ほどきを受け、型を見せてもらったのはとても貴重な体験だった。この体験を通じアメリカに帰ったら自分も空手を習ってみようと思った。
- ・ 邦楽（琴）体験での、先生と息子さん達の演奏がとても素敵だった。（多数）普段楽器を弾くことはないが、思った以上に自分でも琴を弾けたことが嬉しかったし、何か新しい楽器を初めてみようという気持ちになった。先生の一番下の息子さんとピアノの演奏を通じ、音楽を一緒に楽しむことが出来た。
- ・ 地域の子供達や学生との交流。（多数）自分自身初めての人とも気軽に話せるようになったし、地域の人達と知り合えることは楽しい。同年代の学生との交流は楽しかったが、手賀沼周辺で一緒

にフリータイムを過ごす時間は、もう少し意図的に互いの話が出来るとような工夫があっても良かったかも知れない。

- ・ 長刀体験ではとても日本らしい体験が出来たし、実際に対面して自分の身体を使い、色々なことを学ぶことが出来た。
- ・ どんな活動においても地域の人達と交流が持てる時間が楽しい。ホストファミリーだけでなくその都市の人達と知り合いになれるから。
- ・ 美しい手賀沼の景色に癒された。
- ・ ありがとうイベントが始まる前に準備して下さったホストファミリーとのポットラックパーティー。美味しい様々なお料理とリラックスした雰囲気の中、他のホストファミリーも知ることも出来たし、自分自身の日本語の練習にもなった。

<ホストファミリーについて>

- ・ 大好きなホストファミリー。3人兄弟を持つホストマザーからとてもインスパイアされたし、とても元気な子ども達とも良く遊んだ。
- ・ お互いホストして頂くのも受け入れるのも初めてだったが、色々な食事を試したり、ホストファザーの妹さん家族と一緒にホストファミリーデーを過ごしたり、本当の家族のように接してくれた。またぜひ会いに行きたい！
- ・ とても良い家族。色々な話をして楽しく過ごすことが出来た。
- ・ 常に色々気を遣ってくれてリラックスすることが出来た。また日本人のルームメイトとホストファミリーが日本語で話すやり取りに自分も加わることによって、日本語の力が更に伸びたと思う。
- ・ 一番仲良くなれたホストファミリー。自分のために本当に沢山色々心を砕いてくれてとても感謝している。
- ・ お食事の中でも特に朝食がいつも美味しかったこと、また子ども達や両親のことを良く知ることが出来て嬉しかった。
- ・ 言葉の壁はあったけれどそれを超える繋がりを持てたし、本当の家族のように接してくれて本当に嬉しかった。
- ・ ホームシックになる時間もない位、家族の一員として接してくれた。沢山共通の趣味やトピックについて話すことが出来、お別れの時は本当に辛かった。
- ・ 体調が悪い自分を気遣ってあらゆる必要なものを用意してくれて本当に感謝している。自分自身も家族ととても打ち解けたと思う。
- ・ 4年前にお世話になったホストファミリーにまた受け入れをしてもらえた。今回も素晴らしい時間を過ごすことが出来、数年後にまた会いに戻りたいと思う！
- ・ 最高のホストファミリー！沢山の質問をしてくれたし、日本について私に教えてくれ、心から繋がりが持てたと思う。
- ・ ホストファミリーは初めての体験だったので最初はとても緊張したけれど、とても親切にしてもらい、ホストファミリーデーに初めて体験した温泉は大好きになった！
- ・ 毎日まるで自分の家に帰るような気持ちにさせてくれたホストファミリーに感謝！本当に家族の一員として迎えようとしてくれる気持ちが伝わり、自分がこんな体験が出来るとは想像もしていなかった。

- 茨城県水戸市



<参加者の感想、印象に残った活動>

- ・ 弘道館、水戸城跡ツアー。(多数) ツアーガイドの方がとても面白くて楽しかったし、歴史や建築物についての話が興味深かった。多少暑くても外での活動は楽しい。
- ・ 畳のワークショップ。(多数) 実際に自分の手で何かを作って、作った作品を持ち帰ることが出来た。日本の伝統的な畳がどうやって作られているのか興味があったから面白い体験が出来た。またホストファミリーも一緒に体験出来たことが良かったと思う。
- ・ ふれしあのイベントでの書道体験と和太鼓体験。太鼓の演奏を見るだけでなく自分も体験することが出来てとても面白かった。自分は「太鼓の達人」のゲームが好きなので実際の太鼓を叩くことが出来てワクワクした。また今日本語を勉強しているので、書道を通じ更に多くの漢字を学ぶことが出来た。
- ・ 到着日に昼食を兼ねたフリータイムでは、他の参加者と親睦も深まりリラックス出来る時間となった。

<ホストファミリーについて>

- ・ 言葉の壁は少しあったが、ホストファミリーデーなど楽しい時間を一緒に過ごすことが出来た。
- ・ ホストファミリーはいつも忙しそうだったが、いつも自分のために時間を取ってくれたことにとっても感謝している。
- ・ 始めは少し緊張したが、楽しくリラックスした家族で、一番大好きなホストファミリーとなった。
- ・ 少し年配のご夫婦だったが、彼らの生活スタイルや、家族の在り方、仕事に対する考え方など人生観を知ることが出来た。ありがとうイベントのためにホストファミリーのバイオリンを借りて練習出来たことがとても楽しい経験となったし、ホストファミリーデーで初めて居酒屋を体験することが出来た。
- ・ ホストファミリーは常に部活などのスポーツ活動で忙しそうだったが、ホストマザーが私から英語を学ぼうとしてくれていたのが嬉しかった。
- ・ お互いとても気が合っただけに、もっと一緒に時間が過ごせたらと思った。またホストファミリーデーに大洗神社と黄門祭りに参加することが出来てとても楽しかった。
- ・ 自分の受け入れをとても楽しみにしてくれていたことが分かったし、色々な場所に案内してくれて嬉しかった。
- ・ 初めての受入れにも関わらず、とても親切に良くしてくれた。ホストファミリーデーには甚平を来

て黄門祭りに参加してとても楽しかった！

- ・ 打ち解けるまで少し時間が掛かったが次第にとっても仲良くなれた。これからも連絡を取り続けて行きたいと思う。
- ・ とても居心地が良く、ホストシスターが色々な質問をしてくれて彼女と話す時間がとても楽しかった。
- ・ WCI を通じて 12 年前に出会い、以来 WCI の枠を超えた交流を続けて来られた、家族のようなホストファミリー。コロナ禍を経て 4 年ぶりによく対面出来た時は感無量だった。

● 東京都多摩市



<参加者の感想、印象に残った活動>

- ・ 恵泉女学園での縁日体験。(多数) 自分と同世代の学生のみんなが私達の訪問をととても楽しみにしてくれている様子が伝わってきたし、用意してくれたアクティビティが楽しかった。また日本語レッスンでは日本語を学んだことのない自分にとって新たな日本語の表現を知る機会になった。
- ・ 長谷工ミュージアムツアー。(多数) とても興味深い場所で多くのことを学んだ。予想以上に実践的で沢山の情報を得る機会となった。
- ・ 落合中学校訪問と高校生や大学生と過ごした時間。(多数) 日本の中学生達の学校生活を少し垣間見ることが出来たし、落合中学校の先生と子ども達が色々なアクティビティーを準備してくれて楽しい時間を過ごすことが出来た。(かき氷体験のグループではもっと生徒と話す時間があれば更に良かったと思う) 地域の人達と話すことはいつも楽しい体験になる。
- ・ パーソナルデーのオプションツアーでは楽しい時間が過ごせた。(浅草、山梨温泉や花火など) 地域の同世代の学生と一緒に過ごせてとても楽しかった。スケジュールが少しタイトだったので、欲を言えばその中でも更に小グループに分かれて自由に行動する時間を持っても良かったかも知れない。
- ・ ありがとうイベントの日に体験した盆踊りと折り紙(紙飛行機と兜作り)。地域の人達や WCI の他の参加者ともアクティビティを通じ交流が持てる時間になった。

<ホストファミリーについて>

- ・ ホストマザーとホストファザーがとても良い人達で、もっと世界に足を踏み出して新しい体験をしたら良いよと勧めてくれたホストファザーにインスパイアされた。
- ・ 色々な話が出来たし、ホストファミリーデーにはチェスと将棋を沢山した。お食事がどれも美味しく感動した！

- ・ 2 家庭で受け入れをしてもらったため、お互いを知るため両家族でそれぞれもっと長い時間を過ごせたら良いのにと最初は思ったが、これまでの 8 都市での体験により、短い時間でも相手を知ろうと努力することが出来るようになっていく自分に気が付いた。
- ・ 小さい子どものいないご家庭で最初は少し寂しかったが、何をするにも自分をいつも一緒に加えてくれて親切にして頂き、とても感謝している。
- ・ 言葉の壁はあったがとても楽しい時間を過ごすことが出来た。強い絆を持たせたと思う。ホストマザーは自分の住むコロラド州に来たいと言ってくれたのが嬉しい。
- ・ 体調不良で一緒に過ごす時間が持てなかったにも関わらず、私のことを本当に気遣ってくれたことにとっても感謝している。
- ・ 初めての受入にも関わらずとても親切にしてもらえた。
- ・ ホストファザーがキューバ人だったこともあり、イデオロギーや日常生活において他の都市とは違う体験が出来たことがとてもユニークだった。これからも連絡を取り続けたいと思う。
- ・ これだけ沢山笑うのも久しぶりと言う位、とにかく毎日よく笑った 1 週間。とてもオープンなお二人で、家族の一員のように心から歓迎してくださっている気持ちを日々感じた。毎晩楽しみだった夕食を囲んで語り合う時間。奇跡的な新たな出会いに感謝！

2. 今回の成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ 昨年実施した 4 都市（吹田市、宇陀市、伊勢原市、我孫子市）以外の 5 都市は、新たな開催地、もしくは 4 年または 13 年振りの訪問都市もあったが、プログラムカウンセラーとしての経験や語学力も十分に備え、各地の実行委員会からの信頼も厚い即戦力となるカウンセラーを今年も採用することが出来たことはスムーズな運営にも繋がった。新たにカウンセラーに興味を持つ参加者もいるため、今後も継続してプログラム運営に携わることのできるカウンセラーの育成に力を入れていきたい。
- ・ プログラム」カウンセラーは第 1セッションが計 5 名、第 2セッションが計 6 名、第 3セッションが計 4~6 名（最終地多摩では 4 名）の編成だったが、特に参加者が多く、活動日に移動が多い第 2セッションでは 6 名体制が良い機能を果たした。同時に高校生参加者が多かったため必要に応じてコーチングの機会も多く、参加人数だけでなく参加者の年齢層も考慮し、6 名体制は必須でもあった。また途中で帰国するスタッフからの残りのスタッフへも、比較的順調に引継ぎが出来た。
- ・ プロモーション（SNS、ブログ等）に専任したプログラムカウンセラーの努力もあり、TikTok など新しい媒体も取り入れ、これまで以上に日々の活動状況を発信することが出来たことは大きな成果となった。
- ・ 各セッションの第 1 都市でのオリエンテーション日では、WCI のガイドラインの確認やありがとうイベントの準備に終始しがちだが、吹田市と我孫子市ではありがとうイベントの練習を 2 日に分けることが叶い、参加者の負担が少し軽減された。特に我孫子市ではその時間を使って参加者内で互いを知るアクティビティーや、フリータイムを意識的に設けることで、グループ内での良いコミュニケーションを図ることが出来た。

- ・ 今年も各地で多くの高校生や大学生が、実行委員会のサポートやユーススタッフとして関わってくれた。学生たちが参加者と積極的に交流を図ってくれることで、参加者たちの活動に対する意欲も向上し、双方にとって実りある関係性を構築することができた。

(2) 課題

- ・ 7月後半からは気温の上昇に伴い体調不良の参加者も見られ、熱中症対策が必至となった。WCIでは北欧からの参加者など日本の湿度に慣れない参加者が多数参加するため、今後も夏の気温上昇の想定を踏まえ、活動中は定期的な休憩時間やトイレ休憩、また飲料水へのアクセスを設けていきたい。無理無く過密になり過ぎないスケジュール運営を各実行委員会と今後相談し実践していきたい。日中の活動で疲れ過ぎてしまい、各ホストファミリー宅で良質な交流が持てない状況が生じない様に配慮して行きたい。又同時にプログラム前とオリエンテーション時のプログラム参加のガイドラインやホームステイの心得等の参加者への教育を強化し、参加者自身も自己健康管理に専念し、日中の活動とホストファミリー交流が実りのあるものになる様に指導して行きたい。
- ・ 参加者へのアンケートでは、屋内でのレクチャーなどを通じ受け身で体験するのではなく、例えば暑くとも出来るだけ屋外で、実際に見たり自分の手で体験したいとの希望が多かった。例えば街の紹介についてはプレゼンテーションを通じてでは無く、実際足を運んで体験したいと言う声が多く、各地域で予算面や暑さとのバランスを配慮した上で実現可能か、今後検討して行きたい。
- ・ いくつかの地域において、朝のミーティングや活動後の振り返りの時間と場所を十分に確保できなかったことが課題として残る。活動の目的や注意点などの参加者への共通理解を徹底するためにも、グループ内での活動前後の情報共有の為に十分な時間を確保できる様、各実行委員会と相談していきたい。(学校訪問や地域の方との交流などは、事前準備の質によって活動の質や成果にも影響を及ぼすため。)
- ・ 大学生主体で企画された交流はいずれのセッションでもとても好評だが、WCI参加者に今後どんな企画を期待するかアンケートを取ったところ、アイスブレイカーのゲームで盛り上がり楽しいだけで終わってしまうのではなく、ゲームを通じて会話に繋がるようなアクティビティーや、短時間でパートナーを替えてペアで話をするようなスピードデート形式など、ゲームの枠に留まらず、大学生との対話や意見交換を希望する意見が多く見られた。日本の大学生とは数時間のゲームだけでは十分打ち解けることが難しい傾向もあり、有意義な交流の時間を持つためには、1日を掛けて交流する時間が持てる活動が望ましいのではという意見もあった。(熊本県立大学で一日過ごした活動日や、多摩での高校生・大学生企画のパーソナルデーなどは特に好評だった)
- ・ 個人的な事情で早く帰国しなければならなかったプログラムカウンセラーが減り、カウンセラー4名体制で臨んだ多摩では、グループに分かれて別々の活動先に参加するものも多く、暑さや疲れからの体調を崩す参加者も出て、少ないカウンセラー数で運営する際の内部でのコミュニケーションの大切さや、効率的なオペレーションの方法を事前に確認する必要性が感じられた。
- ・ 第2セッション参加者の中には、参加者同士の親睦を深める時間を希望する声や、大人数だったため、積極的に自分から行動が出来なかったと言う意見もあり、大きなグループだからこそ、参加者内で互いを知る時間を意識的に持つ必要性を感じた。例えばオリエンテーションの日にはWCIのガイドラインの確認やありがとうイベントの準備など、こちらからの情報を渡すことに終始するのではなく、参加者が互いを知る時間を設ける工夫も必要と感じた。朝のミーティングや夕方方の振り返りの時間、スケジュール間の隙間時間を積極的に利用してそのような機会を作っていきたい。スケジュールとのバランスが難しい都市もあるが、グループ

内で互いの理解を深めることで、自信を持って活動に参加することが出来る参加者もいる。参加メンバーの多様性を参加者同士が意識することで、お互いの特性を活かし、強いては地域貢献の場でも、より積極的に活動へ参加できると思う。

- ・ 多摩市でのパーソナルデーで高校生・大学生ボランティアより提案を受けた6つのプランに対して、既に独自にプランを立てていた参加者も多く、WCIからの参加者は5-6名に留まった。一方ノープランだったのでとても役立ったと言う声もあり、少数ではあったが参加したメンバーからはとても好評だった。今後はツアー案を少し減らすことでお互い負担なく参加が促せるのではないだろうか。
- ・ 訪問都市での活動が始まるまでに、その後に訪問する他地域のホストファミリーから連絡を受けた参加者が数名あった。楽しみにして頂くお気持ちはとても有り難いが、あくまでも参加者がその時点でお世話になっているホストファミリーとの関係性に集中できるよう、事前のコンタクトを控えて頂くように各実行委員会のご協力をお願いしたい。
- ・ 幾つかの地域で、ありがとうイベント以外のイベントでのパフォーマンスを期待して頂くことがあった。言葉の壁を超えたダンスや音楽を使った交流はWCIのユニークな点で今後も続けて行きたいが、一方でパフォーマンスが得意な参加者が揃っている訳ではない背景もあり、練習・リハーサルに費やす時間が予想以上多かったと言う参加者からの声もあった。今後、イベントから得られる効果を失うことなく、もっと効率的な方法でありがとうイベントやその他のイベントを準備して行きたい。

参考資料

- 参加者リスト

	氏名	年齢	出身国	セッション
1	Shane Bradner	32	アメリカ	1, 2, 3
2	Jada Rojas	21	アメリカ	1, 2, 3
3	Anam Aziz	23	インド・アメリカ	1, 2, 3
4	Sofia Ochoa	19	アメリカ	1, 2, 3
5	Ezura Newby	18	アメリカ	1
6	Tyler Staton	24	アメリカ	1
7	Tara Knoester	32	オランダ	1
8	Arturo Portillo	32	メキシコ	1
9	Asbjørn Kallestad	25	ノルウェー	1, 2
10	Ulrik Grini	21	ノルウェー	1, 2
11	Elizabeth Boyer	21	アメリカ	1, 2
12	Hugo Öjda	23	スウェーデン	2

13	Alva Mellström	20	スウェーデン	2
14	Amanda Lindberg	40	スウェーデン	2
15	Edvin Lind	17	スウェーデン	2
16	Loke Novén	17	スウェーデン	2
17	Gustav Rosas Frid	17	スウェーデン・ブラジル	2
18	Noor-Imane Djamai	20	カナダ	2
19	Angela Vermot	16	フランス	2
20	James Prendeville	17	アイルランド	2
21	Øyvind Solend	18	ノルウェー	2
22	Annika Delgado-Terkelsen	16	ノルウェー	2
23	Norinn Ingeliv Engmark Øyulvstad	17	ノルウェー	2
24	Cornelius Lien	19	ノルウェー	2
25	Henry Græsberg	17	ノルウェー	2
26	Julian Haneborg	17	ノルウェー	2
27	Magnus Froyn	17	ノルウェー	2
28	Anni Aikio	23	フィンランド	2
29	Tiia Tokola	44	フィンランド	2, 3
30	Joaquin Garcia	20	アメリカ	2, 3
31	Sara Chow	17	アメリカ	2
32	Tyler Chow	19	アメリカ	2
33	Marco Torre	17	アメリカ	2
34	Cameron Danesh	22	アメリカ	2
35	Tommy Luu	23	ノルウェー	3
36	Tore Årdal	26	ノルウェー	3
37	Jonathan Ege	27	ノルウェー	3
38	Suzanne Lian	24	ノルウェー	3
39	Kristian Sylte	23	ノルウェー	3
40	Ken Wang	17	ノルウェー	3
41	Laurent Neumann	16	ルクセンブルク	2
42	Kelly Lequeux	25	ベルギー	3
43	Lena Roland	21	ベルギー	3

44	Gabrielle Ye	17	アメリカ	3
45	Daniel Busch	23	アメリカ	3
46	Savannah Erickson	18	アメリカ	3
47	Fuka Reale	24	アメリカ	3

- テキサス州サンアントニオ高校参加者リスト（第1セッション伊佐市のみ参加）

	氏名	年齢	出身国	セッション
1	Gloria Kunnapilly	18	アメリカ	1
2	Narah Monreal	17	アメリカ	1
3	Alexander Gulley	17	アメリカ	1
4	Rudolph (Tres) Jass	17	アメリカ	1
5	Benjamin Alcott	17	アメリカ	1

- 各地 LOC 協力組織（代表）リスト

	都市名	協力組織	代表者
1	鹿児島県伊佐市	きばいが！伊佐	前田 千弘
2	熊本県熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会	前田 香代子
3	奈良県宇陀市	室生国際交流村実行委員会	北森 義卿
4	大阪府吹田市	吹田国際隣人グループ SING	三原 満里
5	長野県上田市	上田国際交流事業を進める会	レッティ ビル
6	神奈川県伊勢原市	ワールドキャンパスいせはら	越水 真理
8	千葉県我孫子市	あびこホストファミリーの会	出沼 芳美
7	茨城県水戸市	ワールドキャンパス水戸	高橋 明子
9	東京都多摩市	ワールドキャンパス多摩実行委員会	加藤 晃章

- スタッフリスト

	担当	氏名	備考
1	総括	西村 紀公	NPO 法人理事長（兼プログラム管理）
2	プログラスマネージャー	三原 有生	オペレーション・ありがとうイベント担当

(ツアースタッフ/カウンセラー)

	主な担当	氏名	出身国
1	通訳、音響、機材	Espen Nielsen	ノルウェー
2	ありがとうイベント	Juuso Myller	フィンランド
3	通訳、音響、機材補佐	Markus Nishimura	ノルウェー
4	SNS、プロモーション	Yunzhi Liu	中国
5	通訳、プロモーション補佐	Jurriën Theunisz	オランダ

● 協力企業・団体等

	都市名	企業・団体名
1	伊佐市	きばいが！伊佐 十曾少年旅行村、伊佐市文化会館、大口元気こころ館、キッチンカーHIRO、大口明光学園中学校・高等学校、郡山八幡神社、大口酒造、菱刈鉦山、無双直伝英信流居合道薩摩錬正館（岩切正館長）、i-町んぐ i-thReee!、山野地区農家の皆さん（前田学さん、竹内さん）、富田洋二さん（三味線奏者）
2	熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会 熊本市、熊本県立大学、熊本 YMCA、熊本県立第一高校、慈恵病院、熊本城災害復旧相談役（津曲俊博さん）
3	宇陀市	室生国際交流村実行委員会 宇陀市、室生地域振興センター、室生小学校、蓮昇寺、夢創の里、忍者修行の里 赤目四十八滝
4	吹田市	吹田国際隣人グループ S I N G 吹田市、財団法人吹田市国際交流協会、吹田市文化団体協議会、吹田歴史まちづくりセンター浜屋敷、関西大学、千里山コミュニティセンター、夢つながり未来館（ゆいぴあ）
5	上田市	上田国際交流事業を進める会 上田市教育委員会、上田市、国際交流フェスティバル実行委員会、上田市第三中学校、丸子中学校、丸子北中学校、丸子北小学校、塩川小学校、長和町、上田鉄道別所線
6	伊勢原市	ワールドキャンパスいせはら（伊勢原市民提案型協働事業） 伊勢原市、伊勢原市教育委員会、市民活動サポートセンター、大山阿夫利神社、目黒旅館、伊勢原手作り甲冑隊、神奈川県総合防災センター、自修館中等教育学校、向上高校、伊勢原ロータリークラブ、伊勢原平成ロータリークラブ、中央公民館、ISEHARA BLUE HANDS Project、伊勢原青年会議所、伊勢原市国際交流委員会、伊勢原ジュニアリーダーズクラブ

8	我孫子市	あびこホストファミリーの会 我孫子市、みんなの情報誌、けやきプラザ、北近隣センター並木本館、水の館、あびこ市民活動ステーション、インドカレーハリオン、極真空手 我孫子道場、遊友会、我孫子市なぎなた連盟、岡村邦楽教室
7	水戸市	ワールドキャンパス in 水戸 茨城県国際交流協会、水戸市国際交流協会、水戸市いきいき交流センターふれしあ、水戸観光コンベンション協会、関川畳屋
9	多摩市	ワールドキャンパス多摩実行委員会 多摩市、多摩市教育委員会、多摩市国際交流センター、多摩市文化団体連合、東京多摩プロバスクラブ、唐木田コミュニティセンター運営協議会、関戸公民館、多摩市国際交流センター、桜ヶ丘商店会連合会、恵泉女学園大学、(株)長谷工コーポレーション、KDDI (株)、東京多摩ロータリークラブ、鶴牧中学校、落合中学校、多摩市立総合体育館